

紅梅會會報



第 94 号

会長あいさつ

49 回生 藤村 龍子



2011年春号発刊にあたり：

新しい年を迎え、会員の皆様いかがお過ごしでしょうか。

遠く離れた政情の不安定な世界の国々に併せて、わが国でも新燃岳の噴火により生活の営みが脅かされ安眠も取れない地もあり、日々の平穏な日を願うばかりです。

そんな中で第 176 回福澤諭吉先生誕生記念会が、三田校舎で開催されました。幼稚舎生の合唱「福澤諭吉先生ここに在り」(佐藤春夫作詞)は、お行儀よく凛とした声で懸命に謳う姿に、心洗われる感じがいたしました。「平等自由の世の中に 独立自尊の人が住む 世界の日本 つくろうと 若者たちに呼びかけて 福澤諭吉 ここにあり」(一番)の歌詞は、今も継承されるものでしょう。2011 年 紅梅会役員一同は「魅力ある慶應看護同窓会活動」を目標に、新たな方向へ前進できる事業を推進させたいと願っています。本年もご支援をよろしくお願いいたします。

◆慶應義塾創立150年記念事業報告

創立 150 年記念事業は、総額 900 億円規模で、2005 年 9 月より計画策定が始まり、実行されてきました。2010 年 10 月 19 日に「創立 150 年記念事業委員会」が開催され、紅梅会会長として出席いたしました。そこで、各事業の現状や寄付金配分計画について説明がありました。慶應義塾における、未来先導基金、福澤諭吉記念文明塾、式典・イベントとしての創立 150 年記念式典、記念講演会「学問のすすめ 21」創立 150 年記念展覧会、記念誌「慶應義塾史事典」「写真集 慶應義塾 150 年」「福澤諭吉事典」の発行、新一貫教育校の開設、三田キャンパス南校舎建て替え、日吉キャンパス、信濃町キャンパスの臨床研究棟、3号館(南棟)、矢上キャンパス、湘南藤沢キャンパス 等に関する事業計画が報告されました。2010 年 9 月をもって事業募金が終了したことを通じて感謝の意が清家篤塾長、募金推進委員会委員長の福澤武氏よりありました。パーティーの席で紅梅会からの寄付金に関しても御礼の言葉がありましたこと、会報を通じてご報告いたします。

◆新しい世代への支援と慶應看護の足跡を財産として蓄積すること

世代をつなぐ「Link age」シリーズに掲載されているように、慶應看護の卒業生は社会のヘルスニーズに応える活動を続けています。高等教育のユニバーサル段階に入った現代、看護学教育の質保証が求められている今こそ、卒業生の活躍は紅梅会にとっての誇りであると思います。第 24 回日本看護歴史学会学術集会(会長 60 回生 三上れつ)は、過去から未来への独自の気風と誇りを確認する集会でした。そして、平成 23 年 5 月 21 日、看護医療学部の新設 10 周年を迎えるにあたり、同窓生一同が共に祝福したいと思います。

春号の主な内容

- ◆平成23年度(第68回)紅梅会総会のご案内 …… 2
- ◆慶應義塾大学病院のトピックス …… 3
- ◆看護医療学部だより …… 4
- ◆ホームカミングディ報告 …… 4
- ◆第33回紅梅会研修会報告 …… 5
- ◆日本看護歴史学会報告 …… 5
- ◆世代をつなぐ「Link age」
 - 特集 慶應看護のあゆみ(第6回目) …… 6~7
 - 学び続ける人たち …… 8~9
 - 同窓生だより …… 10

紅梅会総会のご案内

紅梅会同窓生のみなさま、やっと暖かい春になり、総会の時節になりました。

今年は、慶應義塾大学医学部 歯科・口腔外科学教室 中川種昭教授にご講演をお願いしました。先生の専門は歯周病で、特に口腔機能および整容面での回復のための集学的治療、さまざまなライフステージや生活背景、全身状態に合わせたセルフケア指導を熱心に行なっておられます。今回は、「口腔のアンチエイジング」と題して、生き生きとした生活を支える歯の健康について、みなさまのお役にたてる楽しいお話が伺えると思っております。

今年会場に選んだ東京ガーデンパレスは、駅から近く交通の便が良いだけでなく、北里講堂に似てどこことなく懐かしくなる会場です。万障お繰り合わせの上、みなさまのご参加をお待ちしております。

(紅梅会準備委員長 84 回生 江河 都美)



▲平成22年度紅梅会総会でのひとコマ

日 時 平成23年 5 月 8 日 (日)

午前 10 時 30 分 開会 午後 2 時 閉会 (午前 10 時開場)

場 所 東京ガーデンパレス <会場>高千穂

〒 113-0034 東京都文京区湯島 1-7-5

(御茶ノ水駅より徒歩 5 分)

聖橋を渡って東京医科歯科大学の裏)

Tel 03-3813-6231・6237

<http://www.hotelgp-tokyo.com>

会 費 8,000 円

会場への道順は別紙を参照して下さい。

申し込みについて

* 総会の出欠は同封の葉書で、4 月 15

日 (金) までに返信し、同封の振込用紙で 4 月 19 日 (火) までに入金をお願いします。

* 尚、付添の方が参加される場合の席をご用意させていただきます。また、実費 (6,000 円) で付添の方の食事のご用意も承りますので、同封の葉書の通信欄にその旨を記載し、入金をお願いします。

* 駐車場割引・宿泊割引もごさいます。直接、東京ガーデンパレスへお問い合わせ下さい。

プログラム

- | | |
|---|-----------------------------------|
| 1. 開会の言葉 黙祷 | 7. 講演
テーマ
「口腔のアンチエイジング」 |
| 2. 会長挨拶 | 慶應義塾大学医学部
歯科・口腔外科学教室
中川種昭教授 |
| 3. 報告事項
看護医療学部現状報告
大学病院現状報告
役委員会報告 | 8. 会長代表挨拶・乾杯
会食 |
| 4. 審議事項 | 9. 閉会の言葉 |
| 5. 質疑応答 | |
| 6. 新旧役員挨拶 | |



慶應義塾大学病院の トピックス

慶應義塾大学病院では、今年度も高度で良質な医療を通じた社会貢献を目指し様々な取組みが行われました。以下、簡単にではありますが御報告をさせていただきます。

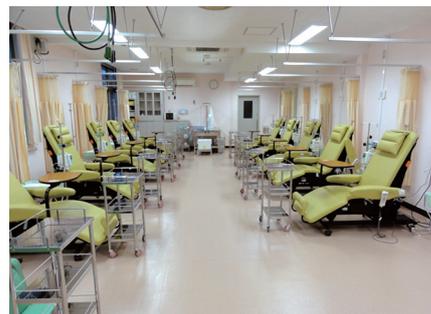
1、緩和ケア外来の開設

2010年10月1日より麻酔科外来より独立し、緩和ケア外来が開設されました。病気の治療の全経過を通して認められる身体や心のさまざまな苦痛を和らげ、患者やご家族にとって可能な限り良好な生活の質（Quality of Life）を実現させるために、緩和ケアチームでは、麻酔科医師、精神科医師、専門看護師が中心となり、疼痛コントロールやメンタル面のサポート、療養環境の整備などの診療活動を行っています。是非ホームページをご覧ください。（<http://www.keio-palliative-care-team.org/>）

2、免疫統括医療センターの開設

関節リウマチ、クローン病など免疫難病の治療方法として、生物学的製剤等を用いた治療が急速に普及しつつあります。こうした治療を希望する患者さんが急増していることから、2010年9月1日に免疫統括医療センターが開設されました。

免疫統括医療センターはリウマチ内科、消化器内科、血液内科、整形外科、皮膚科、眼科、看護師チーム、薬剤師チームにより、最高水準のチーム医療を提供する体制を構築しています。さらに、免疫統括医療センターは最先端の治療方法の開発等を推進し、患者さんに還元できる医療の向上に寄与することも目的としています。



3、HCU 移転と ICU10 床（4 床→10 床）へ増床

2010年11月22日、HCU（ハイケア病床）10床が中央棟3階S側の麻酔科教室があった場所に改築移転しました。2011年2月には現在のGICUの特定集中病床が4床から10床に増床されます。これにより集中ケア床はICU10床・HCU10床となり、重症患者の集中ケア管理が拡大しました。

4、3号館の建設北棟・南棟

別館跡地に「3号館北棟」が2011年1月竣工となりました。「3号館北棟」は、臨床研究棟と連携して学部間・大学間に及ぶ先端的臨床研究の発信と異分野融合を推進するための人材育成の拠点として、大きな役割が期待されています。「3号館南棟」は2011年2月に地鎮祭が行われ着工されました。病棟部門の他、予防医療センター、リハビリ施設、外来化学療法、免疫療法部門、PETを含めた最先端画像診断部門とその製剤部門などを配置する予定で、2012年7月竣工を目指しています。南館移転後、1号棟、2号棟、リハビリ・情報システム棟は順次解体を予定し新病院棟建設に備えます。

5、平成21年度文部科学省大学改革推進事業「看護職キャリアシステム構築」の推進

22年度は、本事業で開発したプログラムで新人看護職員研修や、講演会「キャリアについて考えよう」等を行いました。活動内容は、ホームページをリニューアルし、随時掲載しております。皆さまぜひ一度ご覧ください。

（<http://kango-career.hosp.keio.ac.jp/>）



（78回生 鎮目 美代子）

社会福祉法人 賛育会 賛育会病院

病院見学 受付中

看護師 募集中

慶應義塾大学 卒業生活躍中!!

地域密着の総合病院で、一人ひとりの患者さまに向き合う看護を実践していきましょう。認定看護師、管理職経験者も大歓迎です。

詳しくはWEBで **賛育会病院** 検索

東京都墨田区太平3-20-2（錦糸町駅より徒歩8分）
Tel 03-3622-9192 総務・人事課 直通
E-Mail s-jinji@san-ikukai.or.jp

副院長 兼 看護部長
63回生 武田美代子

レーザー治療専門
8万症例以上の実績の安心と安全

《診療科目》
形成外科・美容外科・皮膚科・外科

院長 藤井 俊史
慶應義塾大学医学部卒業 / 日本形成外科学会認定専門医

看護師 藤井 由美（旧姓・荒井）
慶應義塾大学医学部付属厚生女子学院 第88回生

日本橋 F レーザークリニック
完全予約制
Tel.03-5255-5520
www.nihonbashi-f-laser.com/
〒103-0027 東京都中央区日本橋3丁目8-14 新洋ビル2F

●看護医療学部開設 10 周年記念事業

看護医療学部は 2001 年 4 月に開設され、今年で 10 年目を迎えます。これを記念して、「看護医療学部開設 10 周年記念式典・講演・シンポジウム」を開催、併せて記念誌を発刊するための準備を進めております。記念式典・講演・シンポジウムは 2011 年 5 月 21 日（土曜日）11 時より、湘南藤沢キャンパス θ 館ホールにて開催予定です。看護医療学部開設 10 周年の基盤づくりを確認し、今後慶應看護 100 年を迎えるにあたり、看護医療学部が育成する 21 世紀の「先導者」について発信する機会とさせていただきます。同窓生の皆様のご参加をお待ち申し上げます。具体的内容については随時学部ホームページに掲載予定です。なお、ご希望の同窓生の方には、記念誌の販売（1000 円）を予定しています。数に限りがございますので、完売の際にはご了承ください。

●医学部・看護医療学部・薬学部における 3 学部合同教育

グループアプローチによって、患者中心の医療を提供できる医療人を育成する事を目的として、医学部・看護医療学部・薬学部合同教育のための準備を 3 学部合同で始めております。今年の合同教育の計画は、初期教育（入学初期の段階に行なう）と、後期教育（社会人として医療現場に入る一歩手前の段階）で編成され、平成 23 年度入学生より必修科目として実施されます。

●学生の活動：サンタ企画

1997 年、慶應義塾看護短期大学のボランティアな学生の企画によって始められた「サンタ企画」が、看護医療学部にも引き継がれています。現在サンタ企画は、看護医療学部の学生を中心として慶應義塾大学公認学生団体に承認され、他学部の音楽団体とタイアップして活動しております。2010 年は、12 月 24 日に行われました。クリスマスイブの午後に、慶應義塾大学病院の入院患者さんや外来患者さんに向けて、クリスマスカードと音楽のプレゼントをお贈りいたしました。大学病院外来の待合所や各病棟に、サンタの衣装や実習着に着替えた学生達が出向き、それぞれの場所でクリスマスにちなんだ楽曲の演奏会を行い、患者さんやご家族の方々にお喜び頂きました。一緒に歌を口ずさまれたり、笑顔で手拍子を打って下さり、中には涙をお流しになる患者さんのお姿を拝見し、学生自身も力を頂ける機会となりました。

（短 3 回生 高田 幸江）



ホームカミングディ 報告

12 月 11 日、SFC 看護医療学部の食堂で、看護医療学部の卒業生、在校生、先生方が語り、笑い、抱き合い、そして涙を流す、そんな時間を共有することができました。

1 年生の授業でも行った「自己紹介ゲーム」では全員が笑顔になり、「看護とは何か？」を語る企画では、在校生の呼びかけで隣の人と抱き合い、人の温かさを感じながら「看護とは？」を語り合いました。また今年の ORF で受賞した Mayo Clinic 研修の報告会では「働きやすい環境作りのために私たちがすぐには何か？」という問題提起があり、実際に現場で働いている卒業生からの貴重なお話をいただくことができました。このような会の中で一番盛り上がったのが、ハーゲンダッツの商品券をかけたじゃんけん大会だったのが印象的です。最後に前学部長の佐藤先生からいただいた「職業人として、そして一人の人として」の私たちへのメッセージでは涙を流す方もいらっしゃいました。歓談の時間も予定していたより延長するほど盛り上がり、皆様のおかげで Home Coming Day を成功させることができました。

慶應義塾で「看護」を学んだあるいは学んでいる仲間には、たくさんの思いを持った人がいます。学年を超えての交流が今以上に増えることで、私たちが慶應義塾で学ぶ「看護」とは何か？そしてそれを通して私たちは何をすることができるのか？そのようなことを考えるきっかけが増えるはず！そのような出会いの場にしたいという思いで、4 月から企画をしてまいりました。

今回の Home Coming Day は、紅梅会からのご支援によりはがきでのご案内を卒業生にさせていただき、昨年に比べ多くの卒業生にお越しいただくことができました。また竹ノ上先生、森田先生、茶園先生、標先生にもお越しいただきました。普段在校生にとって、卒業生や先生方と話をさせていただく機会は少なく、本当に素敵な時間を過ごすことができました。終了後のアンケートでは多くの方に「得るものがあった」とお答えいただきました。看護医療学部 Home Coming Day にお越しいただいた皆様、そしてご協力いただいた全ての皆様、本当にありがとうございました。来年の Home Coming Day もよろしく願いいたします。

（学 7 回生 中野 香織）



第33回紅梅会研修会 報告

2010年11月12日(金)「生きることへのまなざし～病氣と共に生きるためのセルフマネジメント～」をテーマに第33回紅梅会研修会を開催いたしました。

講師には、聖隷クリストファー大学看護学部教授の山下香枝子先生をお迎えいたしました。山下先生は、慶應義塾大学病院で看護師として勤務後、慶應義塾大学医学部付属厚生女子学院、慶應義塾看護短期大学、慶應義塾大学看護医療学部で教鞭を取り、その間、2000～2003年には看護短期大学学科長、2007～2009年には看護医療学部部長も勤められ、多くの卒業生が看護実践への情熱と憧れを感じ、看護師になることに動機づけられました。今回の講演では、ご自身のこれまでの臨床・教育経験をもとに研究成果も交え、多角的な面から「生きること」「ケア・看護すること」へのメッセージをくださいました。その内容の一部をご紹介します。

まず、福澤諭吉先生の代表的著作「学問のすゝめ」の一文「世話の字の義」を取り上げ、世話をする(≒看護する)ということは、心の丈を尽くしてface to faceでどれほど相手と向き合えるかということであるとおっしゃられました。明治8年に記されたこの一文は、現在の看護にも通じており、慶應看護にとっては「大きな誇りであり、慶應看護の原点がここにある」とお話されました。

次に、病い(illness)・疾患(disease)・病氣(sickness)の言葉の定義に触れられ、看護師は「病い」という観点から看護を行うべきである。人が病いを患うということは、人間に本質的な経験である症状を患う(suffering)ことであり、病態生理のみにアプローチするのではなく、患者やその家族、その人を取り巻く社会的ネットワークの構成員までもを含めてケアすることが必要である。また、病いとともに生活する人に必要な支援としては、①アドヒアランス(adherence:自分の状況を理解して受け入れ、自己管理が積極的にできるようにすること)、②病いと折り合いをつけながら、療養法を生活の中に組み込めるようにすること、③病む人の可能性・人格の成長に目を向けること、④患者自身が自己の将来の見通しを持ち、生活や療養法の変更に対処できるようにすることなどの4つがあり、看護師は自己管理教育プログラムを提供する必要がある。ケアの質を高めるためには、最初に示した福澤先生の言葉「心の丈を尽くして」相手と真摯に向き合うことが非常に重要であると述べられました。

最後に、「病む人と向き合うことは、相手の苦悩をともに引き受けるということであり、非常に苦しいことであるが、苦悩することによってナース自身も人間的成長につながる」と述べられ、今日の仕事を精一杯することは“意味のあることである”というメッセージを下されました。

今回、研修委員会としては広報活動にも力を入れ、紅梅会会員、慶應義塾大学病院の医療関係者や闘病中の患者さま、地域住民の皆さま、薬学部同窓会 KP 会の皆さまなど、80名もの皆さまにご参加いただきました。この場をお借りして、お礼申し上げます。

(短6・学3(3編)回生 水口 由美)



日本看護歴史学会 報告

平成22年9月19日(日)・20日(月・祝日)の2日間、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスで第24回学術集會を開催いたしました。慶應義塾大学は平成20年に創立150年を迎え、平成22年は湘南藤沢キャンパス開設20周年、看護医療学部開設10年目にあたるため、福澤先生の教育基本方針である「実学」をもとに、慶應看護の原点に立ち戻って歴史を振り返り、現時点を確認して未来をひらいていきたいと考え、テーマは『今、実学を問う—歴史にみる看護教育実践活動—』といたしました。

学会開催にあたり、藤村紅梅会会長、木村前看護部長をはじめ、同期の菅原君や花岡君、白石君、看護医療学部教員(茶園、小池、安田、藤井、添田、山岸、高田君)の他、多くの卒業生の協力を得て、企画・運営いたしました。特別講演、教育講演Ⅰ・Ⅱでは、義塾の歴史編纂に携わっておられる福澤研究所の教授陣のご協力を得て、福澤先生の实学論、ナイチンゲールとミルそして福澤諭吉に至る英国思想の流れ、医療史研究の課題について、ご講演いただきました。また交流セッションでは、「北里柴三郎の看護婦養成の考え方」、「日本赤十字社出身初代看護婦監督鈴置けいの貢献」、「大森文子の協会活動とICN開催」、「慶應義塾大学病院における看護学生のための臨床実習指導体制と卒後教育の歴史的考察」という点に焦点を当て、紅梅会会員の方々から話題提供し参加者と活発な意見交換を行いました。

学術集會を開催して痛感したことは、慶應看護における史実と史料蓄積の重要性です。紅梅会誌、60周年記念誌はもとより、看護短期大学で取り組まれた数々の歴史研究論文には、先輩たちがどのようにして看護教育実践活動において歴史を重ねてきたのか、また変遷する時代の中でどう乗り越えてきたのかか記されております。しかしながら、まだ十分とはいえず、先輩たちからの史料寄付や聞き取りなどの活動が急務であるといえます。

慶應看護がどのような経緯で作られたのか、3代にわたる日本赤十字社出身の看護婦監督らによって作られた土台は、戦後、松村はる総婦長や大森文子氏によって発展の途をたどり、転換期を経て、今どこに向かおうとしているのかを私たちは今しっかり考えていく必要があることを再確認した学会となりました。

(60回生 三上 れつ)



西暦 (年)	一八五八	一八六八	一八九〇	一九〇一	一九一八	一九三二	一九三四	一九四四	一九五〇	一九五四	一九六〇	一九七二	一九七六	一九七七
慶應義塾の150年	開塾・福沢諭吉により 蘭学塾を開く	塾を「慶應義塾」と命名、 近代私学として新発足	大学部発足・私立として 最初の総合大学となる	創立者福沢諭吉先生死去				工学部増設						月ヶ瀬リハビリセンター 開設
慶應看護の90年					医学科附属看護婦養成所の開設	産婆養成所開設	紅梅会発足	医学部附属看護婦産婆養成所 と改称	慶應医学部附属厚生女子学院 と改称	医学部附属看護婦学院設置	医学部附属看護婦学院廃止 看護婦の進学コースとして 別科課程設置	大学病院附属高等看護学院 (看護婦の夜間進学コース)設置	大学病院附属高等看護学院廃止 厚生女子学院に合併し 厚生女子学院に二部課程設置	厚生女子学院が専修学校となる (本科・進学科一部・進学科二部)

慶應看護のあゆみ：看護実践先導への期待

前看護医療学部長 山下 香枝子



大正7年(1918)4月に看護婦養成所として始められた慶應義塾の看護教育は、当時すでに医療における看護婦(師)の役割を高く評価した慶應義塾大学医学部初代学部長北里柴三郎の卓見に基づき始まりました。このことは、福澤諭吉建学の精神に根ざした「独立自尊」の人格養成と「実学」の理念とを見事に具体化した例の一つであり、私学である慶應義塾に学ぶ塾生や関係者の大きな誇りでもありました。

この看護婦養成所は、慶應義塾大学医学部附属厚生女子学院(看護専門課程)、慶應義塾看護短期大学、そして慶應義塾大学看護医療学部へと、環境の変化や医療の発展、人々の健康を求める意識の高まりなどに伴う社会の要請を受けて、いくつかの名称・機構の変遷を経てきました。他方、「独立自尊」の人格養成と「実学」の理念は、医療環境の変化や近代化の激しい風雪の中にあっても、決して没個性化することなく、「建学の理念」として連綿と高く掲げ続けられ、現在にまで引き継がれてきています。今回は、看護医療学開設10周年を迎えるにあたり、現在までの足跡を振り返り、この学部開設にどのような期待が寄せられ、慶應看護は何をしなければならないか、今後目指すべき方向性は何かなどについて、述べたいと思います。

周知のように慶應義塾の看護教育は、これまで、高い臨床看護実践能力を持つ、多くの卒業生たちの活躍を通して、高く評価され、信頼されてきました。これらの評価や信頼には、さらなる期待が寄せられ、「保健・医療・福祉を先導でき、急速な国際化の中でリーダーシップを発揮できる塾生の育成が急務である」と強く認識され、看護医療学部準備構想に拍車がかかり、2001年に開設となりました。学部が続いて2005年に大学院(健康マネジメント研究科)修士課程、2007年に後期博士課程が備わり、教育・研究・実践を先導できる準備が整いました。福澤諭吉建学の精神を連綿と受け継ぎ・発展させてきた慶應看護の将来に、今、まさに「先導者」となるミッションが、在校生・卒業生に手渡されたと言えると思います。慶應看護を愛する皆さんのchallengeを期待しています!



▲信濃町キャンパス(孝養舎)での演習風景



▲3年次実習室での演習風景



▲海外(メイヨクリニック)看護実習の一場面

一概に看護職といってもその枠組みの中には助産師・看護師・保健師があり、社会の高齢化や周産期医療の重点化・脳死移植の認可などに伴い、看護職の活躍する場は益々多岐に渡るようになりつつあります。また、医療の高度化・各役割の専門化のため、看護職は高度な専門知識を身につけ、患者の安全・安心を守る責任を担っています。今回は、日々進歩する医療の中で、現状の自分に満足することなく新たな自分にチャレンジするため、学び続ける会員の方々をご紹介します。

学ぶ機会を得て

学1回生 田中 喜子



私は看護医療学部を卒業し、昨年3月まで慶應義塾大学病院9S病棟で勤務しておりました。9S病棟では主に同種造血幹細胞移植を始めとする血液疾患患者の看護に携わってききました。業務をこなすことに一生懸命だった1年目から、患者さんや病棟スタッフの皆さんに多くのことを教えていただき、人間の奥深さ、温かさ、弱さに触れ、看護にやりがいを感じるようになりました。

また、病棟では化学療法のクライオセラピーや血液培養の研究にも取り組み、国内外の学会に参加する機会をいただきました。アジアの造血幹細胞移植に携わる看護師との交流もきっかけとなり、彼らと一緒に血液疾患患者のケアの質を向上させていきたいと思うようになりました。

そして昨年春、大学院に進学しました。進学を決めた理由は、日本を始め海外で積み上げられてきている血液疾患患者へのケアを学び、臨床に役立つ研究能力を身につけたいと思ったからです。大学院に入学し約一年経ちましたが、今は論文を通し、世界各国で様々な研究デザインが生まれ、ケアの質の向上が目指されていることを目の当たりにし、彼らから学ぶ必要性を強く感じる日々です。

目の前の患者さんへのケアというミクロな視点と、血液疾患患者のケアの方向性、必要性を探るマクロな視点を同時に持ち続けられるような看護師になりたいと思います。大学院生としての時間を大切に、大学院で学んだことを臨床現場にフィードバックできるようにしっかり学びたいと思います。

大学院助産師課程への進学

学4回生 須賀 梓



私は助産師になるため、当初は看護医療学部在学中に助産過程を選択するつもりでした。しかし、臨床実習を経て、まずは看護師としての技術や知識を身につけたいとの思いから、在学中は海外研修等を優先し、就職後に進学を考えることにしました。現在は混合外科病棟に勤務して三年目を迎えますが、日々多くの患者さんの「死」と向き合う姿やその生き様を目の当たりにし、健康で生まれてくることがどれだけすごいことであるかを改めて強く感じています。同時に、まさに「生」の瞬間に立ち会える助産師への関心がより一層強いものとなっていきました。しかし、実際は一日一日が精一杯で、いざ進学を考えると不安や迷いが生じました。そんな時、「今、この一瞬を後悔しないように生きないと。人生自分次第。私は死ぬことがわかったときに悔いのない人生だったって思えたから、今も最期まで頑張ろうって思える。若いんだから頑張れな。」と、ある患者さんが鎮静開始直前に話された言葉にハッとさせられました。「死」を前にしても、「生」を全うしようとする姿に強く心を打たれ、今の自分には時間があるのだから、自分の気持ちに正直にまずは挑戦してみようと決まってきました。

この3年間辛いこともありましたが、それ以上に「今」を懸命に生きる患者さんから多くのことを学び、多くのものを得ました。「看護は看護師が一方的に提供するものではなく、相手の反応があってはじめて成立する」という学生時代には実感がわかなかった恩師の言葉の意味も今では理解できるようになってきました。これら看護師としての経験全てが、次のステップへの原動力となっていることは間違いありません。

今、私の進学を応援してくださった周囲の皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。慶應での看護を通して学んだ「生」と「死」を糧に、この経験を私の個性として、また強みとして、助産師の道に大いに活かしていく所存です。



—I hear this phrase often and especially now with the health care reform underway in the United States. Nurses play a major role in our healthcare system. Not only do they provide individualized patient-centered care at the bedside, but increasing attention has been paid to promote well being and prevention, coordinate multi-disciplinary teams and advocate in government and policy. Truly, the possibilities in nursing are endless.

Upon returning in 2008, I attended Yale University's Gerontological Nurse Practitioner program. While attending school and clinical rotations, I worked evenings and nights at a large community hospital. Balancing work and school proved difficult at times but in the end, the benefits outweighed the challenges. My academic life supplemented my professional life—and vice versa. One of the biggest challenges of becoming a nurse in the U.S. would have to be caring for a culturally diverse population and working alongside healthcare professionals who also come from diverse backgrounds. In the end, such experiences have allowed me to become cognizant and appreciative of individual values that make up our complex healthcare system. The fundamental nursing principles are universal, yet such an array of dynamics can alter how these principles are approached.

When I was in Japan, I often thought about returning to the U.S. This was most likely due to the culture shock I experienced when I first set foot in a Japanese hospital. However in retrospect, I now see the high level of dedication and professionalism nurses in Japan bring to patient care. Yes, nursing in the U.S. is exciting, but nurses in Japan carry a far greater potential for shaping our future of nursing. I greatly encourage anybody seeking to expand their nursing visions to join me in making endeavors to further promote our nursing profession. This by no means implies studying abroad. We should continue to recognize nursing leadership beyond the unit or institutional level and strive to think big—for ourselves and most of all for our patients.

【訳】【今がナースにとって一番エキサイティングな時】

アメリカでヘルスケアシステムの改革が行われている今、特によくこのフレーズを耳にします。アメリカのヘルスケアシステムの中では、ナースが重大な役割を担っています。臨床の場で、個々の症例に応じて患者中心のケアをするだけでなく、福祉や予防医学の推進が今まで以上に重要視されてきており、多岐に渡る分野の専門家と政府の代弁者や政策の調整役でもあります。実にナースとしての可能性は限りなく広がっているのです。

私は2008年にエール大学で老年医学ナースプラクティショナーの教育課程を受講しました。授業を受け、臨床ローテーションをこなす傍ら、夕方から深夜にかけては、地域の中核病院で働きました。仕事と学業の両立は、時には難しいものでした。でも、最終的には困難に勝るものを手に入れることができました。学生として学んだことは、私の専門職としての側面を補ってくれましたし、その逆もありました。アメリカでナースになる過程で、もっとも大変なことの一つは、多様な文化圏の人々をケアし、同様に多様な背景を持つヘルスケア専門職と共に働かなくてはならないことでしょう。最終的には、このような経験のおかげで、アメリカの複雑なヘルスケアシステムを構築している個々の価値観を認め、理解することができました。基本的な看護の原則は普遍的なものです。しかし、このような国の成長過程の違いによって、看護の原則への取り組み方が変わる可能性があります。

私が日本にいた時には、アメリカに戻ることはばかりを考えていました。これは日本の病院に初めて足を踏み入れた時に感じたカルチャーショックに因るところが大きいように思います。しかし、振り返ってみますと、今は日本のナースがいかに献身的に、高いプロ意識を持って患者ケアに当たっているかが分かります。確かに、アメリカでナースとしてやっていくことはエキサイティングです。でも、日本のナースは、ナースとしても私たちの未来を形作っていく上で、更なる偉大な可能性を持っているのです。ナースとしての将来性を広げたいと思っている方、是非、私と一緒にナースの専門性を更にもっと膨らませていく努力をしていこうではないでしょうか。これは、何も海外で勉強するというものではありません。私たちは、病棟、病院の垣根を越えたナースとしてのリーダーシップを受け入れ、大きな視点に立って考える努力をしていかななくてはならないのです。私たち自身のために、そして誰よりも患者さんたちのために。

愛されて50年

これからも看護師さまの足元を支え続けてまいります。



本草の優しさ

No.470 エムエムシューズ(マジック)

- サイズ:21.5~26.0cm
- アッパーソフト本草
- 中敷きドミックス(光触媒合成皮革)
- ソール:ウレタン
- ヒール高:40mm
- ウイズ:3E
- 日本製
- 本体価格:8,715円



フワリ新感覚

No.911 ノベルナース®

- サイズ:S(22.0-22.5)から5L(28.0-28.5)
- アッパー:E.V.A
- 中敷き:E.V.A/ポリウレタン
- ソール:E.V.A
- ウイズ:3E
- 本体価格:6,090円

おトク情報

5月未まで限定で富士ゴムナースオリジナルシューズは、慶應大学病院内・B1リネン室(トーカー様)にて本体価格より**35%引き**にてお求めいただけます。商品のご確認にはホームページをご覧ください。



professional footwear service

富士ゴムナース株式会社

www.fg-nurse.co.jp

ご好評いただいております同窓会だより。皆様からの反響も大きく、触発されて同窓会を行った等のご感想を聞くたびに編集委員冥利に尽きる思いであります。今回は、紅梅会が^{えにし}つなげたお母様との縁にまつわるお話も掲載させていただきました。今後は「同窓生だより」として、同窓会の報告にとどまらず、会員の方々の活動やエピソードをお伝えてしていきたいと思っております。

39 回同窓会だより

39 回生 米倉 敦子

昭和 32 年春、厚生女子学院 39 回生として卒業した 47 名。その殆んどが慶應大学病院に就職し、そして折しも完成した北寮 5 階に入居、そこで看護婦生活のスタートを切りました。

数年後、国内初の専任臨床指導（学生係）に 4 名、専任教員に 3 名、病棟主任に 2 名が就きました。その後、結婚等で状況が変わり、他施設に移って看護部長や教員、企業看護師として従事した級友もおりました。爾來 53 年の長い歳月が過ぎ、残念ながら 4 名の方が旅立たれましたが、残る殆んどの方の消息を得て、現在も旧交を温めています。初めての同級会は卒後 25 周年の昭和 57 年秋、教務主任だった大森文子先生、学級担任の稲垣陽子先生を迎え、31 名の級友が集まりました。在校中より、既に先生方が切望しておられた母校の短大昇格に、有志でささやかに募金をしており、この時も塾創立 125 周年記念事業資金に寄付をいたしました。その後、短大が実現、そして現在看護医療学部開設 10 周年を迎えるとは感無量の心持です。初の同級会以来 3 年に一回、隔年と会を持ち、最近では毎年昼食会や一泊旅行を重ねています。16 回目となった今年は、11 月 14 日の昼、東京駅大丸店内の仏料理店にて開催し、16 名参加して楽しい時を過ごしました。全員が今期中に後期高齢者になります。親の介護を続ける人、伴侶を看取った人、闘病中の人の他、現役で多忙な人もあり、段々と集まりにくくなって来ました。何歳まで同級会は出来るのでしょうか？ 級友との歓談は脳活の特効薬とか。逢えば時を忘れるほどの同級会。これからもメールによる連絡の充実を図り、時期や場所も工夫して一日も長く続けたいと願っています。



▲筆者前列左端

「紅梅会が繋げたもの」

73 回生 森 純子

73 回生の森純子（旧姓飯田）です。

私達は、ほぼ毎年クラス会を開いております。卒業生 30 人中 10～13 人くらい、時には担任だった先生方も参加して下さいまして楽しいひとときを共にします。私は現在、近隣の保健センターにて健診のパートをしています。

紅梅会には毎年参加しています。私の母も慶應の卒業生です。母と同窓だとわかったのは私が卒業してから 19 年もたってからです。母は私が 12 歳の時他界したため、看護職だったということだけがわかっていて、どこの卒業だったか知りませんでした。しかし厚生女子学院に入学した時に北里講堂の前の道に見覚えがありました。それは母が慶應に入院していたため、お見舞いに来たことがあったからでした。そして卒後 19 年たった平成 7 年、たまたま知人の卒業生が慶應に入院した時、もしや母も同窓ではないだろうかと思いました。すぐに紅梅会名簿を探したところ、母の名前を物故者の欄に見つけました。昭和 10 年 3 月卒業、16 回生飯田（旧姓高梨）フミです。ものすごい驚きでした。まるで母が「私はここよ」と言っているかのようでした。懐かしさと感動が心をよぎりました。そしてその年の紅梅会では、母の同級生や知人に会うことができ、とても感激いたしました。また、伯母も母の同級生とわかり 30 年以上音信不通だった伯母と会うことができました。紅梅会が私と母を繋げてくれたのです。

なお在学中に母の病歴を探してくださった担任の菅原先生、伯母に連絡を取ってくださった五味まさ様に感謝いたします。ありがとうございました。



▲筆者後列左端

例年になく猛暑の続く8月の朝、澄子さんからの携帯電話が入る、「あの…慶應病院の添田です、今井先生の携帯からかけています、先生今朝亡くなられました」。今井さんとは四十数年前、厚生女子学院の新任の教員として慶應病院からの推薦で就任した時からの出会いでした。当時は厚生女子学院も専門学校で教員の仕事は、講義と教務事務中心であり、臨床実習は、当時、総婦長の松村はる氏の指導のもと慶應病院が全国で初めての専任の実習指導者制度を設けた総婦長直属の先輩たちにより行われていました。しかし、教員は、講義・実習指導を各教員が専門性を持ち行うべきであると考え、教務事務の事務職員への移譲と教員が実習指導に病棟に出るシステムの新設に動き出しました。多くの複雑な困難に向けての改革の時代です。彼女は、前向きに慶應の看護教育への道を築いた初期のメンバーです。その役割は看護の楽しさ、看護の基本、人間として成長を身につけることを理念に教員生活を送っていたようです。時として厳しく、優しく接するその姿は今でも脳裏に残ります。厳しく指導された学生は、一時的に恨んだり、反抗したこともあったでしょう。彼女の教員としてのよさは、そのような学生が努力し良い学習成果をあげたときの対応は素晴らしいもので、学生がその後頑張れるように賞賛をおしみにくく与えられることでした。今井さんの逝去にあい、これからも慶應義塾の看護教育は、学生を愛し、厳しく且つ看護への楽しさを伝えることを忘れないことが本当の哀悼になると信じます。



追悼の辞 —青田与志子氏へのお礼の言葉—

去る平成22年8月18日 17回生青田与志子氏(旧姓村上)がお亡くなりになりました。ここに謹んでお悔やみ申し上げますとともに、看護医療学部・健康マネジメント研究科看護学専修の学生が、国外で活動することをご支援くださいましたことに対して心からお礼申し上げます。

青田氏は、昭和9年に慶應義塾大学医学部附属看護婦養成所に入学されました。慶應義塾で学ばれた青田氏は、「慶應義塾で学んだおかげで自分の人生は道を誤ることなく導かれた」¹⁾と感謝の気持ちで人生を歩まれ、何らかの形で慶應義塾の役に立ちたいとお考えになっていたそうです。看護医療学部が設立された時、青田氏はこれを記念して、「これからの世紀に、看護の専門家として医療の現場で活躍する人たちには、若い時代にいろいろな世界を見て・経験して、広い視野を持ち、判断力を高めて活躍してほしい」²⁾とのお考えで、多額のご寄附をくださいました。これを受けて、看護医療学部では平成14年、学部生の外国における学習・研究活動を奨励することを目的に、「青田与志子記念慶應義塾大学看護医療学部教育研究奨励基金(青田基金)」を設置致しました。青田氏は、平成20年にも慶應義塾150年を記念して追加寄附をしてくださり、これを機に健康マネジメント研究科看護学専修の学生の海外活動も支援の対象となりました。

この基金には、2つの枠組みがあります。一つは、看護医療学部の開設当時の理念で作られた海外実践科目(臨床看護実践：海外：急性期、慢性期、世界の医療保険制度Ⅱ、世界の母子保健比較)を履修する学生への支援です。学生は、アメリカ、イギリス、オーストラリアなどの医療施設で、講義、施設の見学、看護の実践場面の見学と看護師との意見交換をして学んでいます。もう一つは、海外で自主的な課外活動を行う学生への支援です。学生は、ボランティア活動、医療福祉施設の見学、語学研修など、多様な方法で、さまざまな国の人々と交流して異文化に触れ、海外のことを知り、さらに日本の文化や医療・福祉を見直したり、人間の幸せな生き方や死についても考える機会となっています。海外で貢献したいという気持ちを持っていた学生の中には、この海外での経験に後押しされ、すでに海外でのボランティア活動や、国際的な機関での仕事に従事する卒業生もいます。今後、学生の国際的な活動の支援を継続・発展させ、卒業後、国際的な視野をもって国内・国外で活動する学生が育つよう支援したいと思います。

ここに改めて、青田与志子氏に心からお礼申し上げますとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

1) 2)：慶應義塾大学看護医療学部「青田与志子記念基金の奇跡—2003年度—2008年度活動報告 P1-2」より抜粋



150年記念事業支援委員会より

お知らせ 慶應ナースリカちゃん人形をさらに値下げしました

すでにご案内の通り、慶應義塾創立150年記念事業は平成22年10月をもって終結いたしました。ストラップは完売いたしました。リカちゃん人形の在庫が1000体近くあり、12月10日の役委員会でさらに**値下げ(¥1,000)**を決議いたしました。皆様のご協力を得て、1月までに約半数の販売をすることができましたが、まだ、300体ほど残っております。同窓会の皆様、是非ご購入下さいますようお願い申し上げます。なお、在庫が終わり次第、事業を終了させていただきます。

紅梅会事務局より

お知らせ 会報がメール便配送になりました

住所・氏名等に変更があった場合は、必ず事務局までご一報下さい。郵便局に住所変更届けが出ておいても配達できません。お手数ですがよろしくお願いたします。また、年会費を二年間滞納されますと会報発送を中止させていただきますので、お忘れなくお払い込み下さいますようお願い申し上げます。また、学部卒業生の方で終身会費未納のまま2年経過しますと、同様に会報発送を中止しておりますので、終身会費の納入をお願いいたします。

事務局は原則として下記の日時に開けておりますが、諸事情により不在のこともございますので、あらかじめご了承下さい。なお、不在の場合は留守番電話に、回生、お名前、用件をお残しください。折り返しご連絡いたします。

事務局

月・木曜日 11時～17時(8月は夏休み)

浅田 頼子(68回生)

在室時間

直通電話・FAX: 03-3341-8116 (内線 62043)

「特選塾員推薦」受付中

平成13年4月から、特選塾員規約の一部変更により、厚生女子学院卒業生の方も特選塾員となることできるようになり、今までに230名の方が会長推薦により特選塾員とされました。塾員であるということは慶應義塾卒業生のメンバーとして塾員間の交流ができるようになり、多彩なメンバーとの交流もできるようになります。

※詳細は事務局にお問い合わせください。

訃 報

18回生、助16回生	小柴 セイ(旧姓福島)	平成22年2月24日	31回生	名倉ヒサエ(旧姓河野)	平成22年12月13日
21回生	増渕 きみ(旧姓野間)	平成22年9月23日	38回生	中川 清子(旧姓寺内)	平成22年3月27日
22回生	松浦 勝美(旧姓原)	平成22年10月17日	42回生	召田 光子(旧姓佐藤)	平成22年8月22日
23回生	小椋ミサ子	平成22年4月3日	58回生	須田 町子(旧姓細川)	平成18年11月15日
26回生	荒木フサ子(旧姓横山)	平成22年4月10日	64回生	小野るり子(旧姓梅木)	平成22年9月22日
26回生	田辺千代子(旧姓前久保)	平成22年4月30日	進二8回生	松羽 幸子	平成22年4月28日

編 集 後 記

あっという間に2010年が走り抜け、2011年も春になろうとしています。会員の皆さまはいかがお過ごしでしょうか。紅梅会会報編集委員として、多くの会員の方々の活躍をお伝えすることができ、うれしく感じます。同窓会も各学年で和気あいあいと行われており、繋がりを感じます。「繋がり」が希薄になりがちな近頃です。紅梅会会報を通して皆様の「繋がり」が広がるよう取り組んでいきたいと思っております。どうぞ皆さまのご意見、ご要望をお寄せください。

編集委員 山口 伸子

広告掲載募集

広告を募集しています。紅梅会会員の場合、名刺サイズ1枠(5.5cm×9.0cm)5,000円、2枠10,000円とさせていただきます。読者(会員)にとってより身近な医療・看護関連の広告をご提案できればと考えています。広告掲載のお申込・お問い合わせは、紅梅会事務局までお願い致します。この会報(広告)は、紅梅会のホームページにも1年間掲載されます。

(この広告掲載の基準は2011年3月末日のものです)

「同窓生だより」原稿募集

今号からリニューアルしました「同窓生だより」。これからは、同窓会のご紹介だけでなく、会員の皆さまからのお便りやご活躍されている様子を掲載させていただきます。この会報が同窓生や同級生、会員の皆さまとの架け橋になればと思っております。同窓会・同級会の原稿も引き続き募集しております。是非、原稿をお寄せください。よろしくお願いいたします。